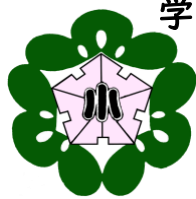


教育目標：よく考え 進んで学ぶ子      自分も友だちも大切にする子  
正しく判断し 行動できる子      体を鍛え 最後までやりぬく子



学校だより

高 松

令和7年7月1日 発行

立川市立第五小学校

校長 関口 保司

〒190-0011

立川市高松町1丁目1番25号

TEL 042-523-5238

042-523-5230 (こだま学級)

FAX 042-529-0854

HP <http://www.tachikawa-edu.jp/es05/>

## 子どもたちに笑顔と学びを

～大山加奈氏講演～

校長 関口 保司

東京都教育委員会「笑顔と学びの体験活動プロジェクト」で、元女子バレーボール日本代表選手の大山加奈氏が本校に来校し、講演と実技指導を行ってくださいました。大山加奈氏は、小・中・高すべての年代で全国制覇。オリンピック・世界選手権・ワールドカップと世界の三大会に出場され活躍されました。プロジェクト当日、6年生の子どもたちに、とてもやさしく、温かい雰囲気でのような講演をしてくださいましたので紹介します。

- ・みなさんこんにちは。私の身長は187cmです。小学校6年生の時は175cmありました。この身長とパワーを武器に、バレーボールをずっと頑張ってきました
- ・まず「なぜバレーボールを始めたか」というお話をします。小学校に入った時、身長が138cmありました。先輩が「バレーボールやろうよ。」と声をかけてくれ、練習を見に行くと、先輩たちがキラキラ輝いて見えました。すぐ私も「バレーボールやりたい。先輩たちみたいになりたい。」と思い、父母に話しました。でも父母は大反対。身体がすごく弱い子だったからです。ひどい喘息もありました。でも、どうしてもバレーボールをやりたい気持ちが消えなくて、2年生になるタイミングで「絶対にやめないから。頑張るから。お願いします。」と父母を説得して、「いいよ。」という返事をもらいました。私が、バレーボールを頑張ることができたのは、「できなかったことが、できるようになるってこんなに嬉しいんだ。こんなに感動するんだ。」と感ずることができたからです。仲間とボールが繋がった時、すごく感動しました。初めてジャンプしてネットの上からアタックを打った時、めちゃくちゃ気持ちがよかったです。難しいからこそ、練習してできるようになった時、大きな喜びと感動を感じ、バレーボールが大好きになりました。父母に反対されたからって、諦めなくてよかったと思っています。自分にもできるかもしれないと一歩踏み出して、良かったと思っています。だからみんなも、「自分なんて無理。自分になんてできない。」などと絶対に思わないでほしいです。みんなは可能性をもった人たちです。自分のことを大切に思っていてほしい。興味あるなと思えるものがあったら、ぜひトライしてください。
- ・次に「バレーボールのどんなところが好きか」ということを話します。1番は苦手があっても大丈夫なところ。バレーボールは苦手なところを、他の人がカバーしてくれるスポーツです。私はアタックが得意でした。しかしレシーブは苦手だったのです。でもコートには5人も仲間がいます。その中にはレシーブが得意な人もいます。そのレシーブが得意な仲間が、私の分までカバーしてとってくれます。だから私は、自分の得意なアタックで、チームのために頑張ることができました。誰かの苦手や弱点を、誰かの長所・得意で助け合うことができるのがバレーボールです。このことは、コートの上だけではなく、コートの外も一緒だと思います。みんなそれぞれ得意・不得意がありますね。長所・短所もあります。苦手なこととか、まだできないこと、これからできるようになることに、人はすぐに意識が向きます。でも逆に得意なところや、自分の良いところは、ちゃんと見付けてあげないとなかなか見付からないのです。だからみんなには、自分の良いところ探しをしてほしい。自分の得意なところを分けることが大事。そして、苦手や弱点も隠さなくて大丈夫。みんな一人一人、苦手や弱点は、あります。みんなが強さも弱さも交換しあったら、みんなはもっともっとすてきなクラス、すてきな学年になっていくと思います。すてきな世の中に、社会になっていくんじゃないかな。まず、みんなは、自分の良いところ探し、お友達の良いところも探してほしいです。

最後に「みんなが目を見ながら一生懸命お話を聞いてくれました。積極的に参加してくれました。とっても嬉しかったです。」と話していただきました。今回のプロジェクトの経験が、子どもたちの夢を育み、将来に少しでもプラスになることを願っています。